

副詞「せいぜい」の指導における共起構文の明示  
 EXPLICIT PRESENTATION OF CO-OCURRING SENTENCE STRUCTURES IN  
 TEACHING “SEIZEI”

藤原美保, ウィラメット大学  
 Miho Fujiwara, Willamette University

## 1. はじめに

英語を母語とする日本語学習者（以下学習者）は「せいぜい」を使って「一ヶ月にせいぜい一度映画を見に行きます。」のような許容度の低い文を産出することがある。このような文の産出を避けるために、どのような情報をどのように学習者に提示するのがよいのだろうか。本稿では、「せいぜい」の教科書の提示例と学習者の使用例の分析を通して、「せいぜい」との共起構文を例文と共に学習者に明示する必要があることを述べ、さらに、書き言葉コーパスを使ってよく使われる共起構文を明らかにした後、それらの学習者への提示方法の一例を挙げる。

## 2. 「せいぜい」についての先行研究

副詞「せいぜい」には、下記のように3つの意味があるとされている。

- (1) 「できるだけ」に類似した意味  
せいぜい頑張りたまえ。（森田 1989）
- (2) 「たかだか」に類似した意味  
入場者はせいぜい百人だ。（安部 2005）
- (3) 「せめて」に類似した意味  
もうちょっと長くしてもらわないと...せいぜい三ヶ月ぐらいやってください。（向坂 2009）

林（2013）によると、現在「せいぜい」は主に（2）の「たかだか」の意味で用いられている。また、本研究で扱う「せいぜい」も「たかだか」の意味の「せいぜい」である。

安部（2006）はこの「たかだか」の意味の「せいぜい」を、以下の例を用いて「程度化された表現と共起する」とりたて用法の「せいぜい」とした。例文の下線は共起する程度化された表現を表す。

- (4) 「くらい」「ぐらい」による程度化  
猫背の、異様に背の高い男で吟子はセイゼイその肩くらいまでしかない。（安部 2006（38））
- (5) 数量詞自体が有するスケールによる程度化  
三銭じゃ、セイゼイ三きれだな。（安部 2006（44））
- (6) スケール上の位置づけによる程度化  
...（略）...龍子は、その頃は自分だってセイゼイ赤ん坊だったことを棚にあげて説きすすめた。（安部 2006（45））

しかし、安部（2012）は、安部（2006）のとりたて用法の「せいぜい」は「程度化された表現と共起する」とするという記述だけでは不十分であることを、以下の例文で指摘した。

- (7) a この1週間でお弁当を2回作った。  
 b?? この1週間でお弁当をせいぜい2回作った。（安部 2012（7））
- (8) a 新幹線で京都まで行った。  
 b?? 新幹線でせいぜい京都まで行った。（安部 2012（8））

上記の例文のbでは、それぞれ程度化された表現を含んではいるが、「せいぜい」と共に使用すると許容度が下がることがわかる。

そこで、安部（2012）は「せいぜい」のとりたて用法を次のように再定義した。

- (9) とりたて用法の「せいぜい」文の構文的特徴  
 とりたて用法のせいぜいは、「XハY程度ダ」というように、ある物事の程度性を問題とし、当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文（節）と共起する。（安部 2012（22））

例（4）をとってみると、「猫背の、異様に背の高い男で吟子はせいぜいその肩くらいまでしかない。」という文では、「『吟子の身長はその男の肩程度だ』と述べる文にせいぜいが共起して」（安部 2012; 402）おり、例（5）「三錢じゃ、せいぜい三きれだな。」では、「『三錢で買えるのは三きれだ』と解釈できる」（安部 2012; 402）文にせいぜいが共起していると考えられる。つまり、「吟子の身長はその男の肩程度だ」「三錢で買えるのは三きれだ」が、（9）でいう「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文（節）」に当たるということになる。

安部（2012）では明記されていないが、この分析に従うと、例（7a）（8a）の「この1週間でお弁当を2回作った。」「新幹線で京都まで行った。」は、数量詞や程度を表す表現は伴っているものの、「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文」ではないということになる。よって、「せいぜい」と共起した場合（7b）（8b）の許容度が下がると考えられる。

では、何をもってしてある文（節）が「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文（節）」と解釈されるのであろうか。一つは、（9）にあるように「XハY程度ダ」構文を使っている場合である。しかし、この構文は述部が動詞である（7a）（8a）などには当てはまらない。これらの場合は、下記のような文（10b）（11b）にする必要がある。

- (10) a この1週間でお弁当を2回作った。  
 b この1週間でお弁当をせいぜい2回しか作らなかった。
- (11) a 新幹線で京都まで行った。  
 b 新幹線でせいぜい京都まで行ければいいほうだ。

以上のことから、日本語母語話者は「せいぜい」の使用に関して、(i)「程度化された表現と共起する」がそれだけでは不十分で、(ii)「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文(節)」と共起せねばならず、それらの文(節)は(iii)「XハY程度ダ」構文を使ったり、(iv)述部が動詞である場合は「しか〜ない」等と共に用いて作ったりすることができる、ということを理解していることがわかる。

このように、「せいぜい」の使い方には一定の制約があるが、では、日本語教育では「せいぜい」はどのように教えられているのであろうか。

### 3. 日本語教科書の中の「せいぜい」

「せいぜい」を扱っている教科書はそう多くはない。An Integrated Approach to Intermediate Japanese [Revised Edition] 『中級の日本語 [改訂版]』(三浦&マグローイン 2008a) (以後「中級の日本語」)では、「せいぜい=at most」の見出しの後、英語で「It indicates a maximum limit, which is still a small amount.」と説明し、(12)の例文を挙げている。

- (12) a 大きいクラスでは、1時間にせいぜい一、二度当たればいい方だ。  
In a large class, on a good day, you will be called on at most once or twice.  
b 日本のサラリーマンは、休みを取ったとしても、せいぜい四、五日でしょう。  
Japanese white-collar workers, when they take vacations, take at most four, five days. (三浦&マグローイン 2008a; 248)

また、日本語能力試験 1-2 級語彙対策標準テキスト(行田、深谷&渡辺 2007)では、「せいぜい」を「『多くても、最高で』という意味。限界を表す。」と定義し、以下の例文を提示している。

- (13) a うちの会社は夏休みがとれてもせいぜい5日だろう。  
b 今回の募集で採用されるのはせいぜい3人だということだ。  
c 私が彼女のためにできることといえば、せいぜい愚痴を聞いてあげるくらいのことだ。(行田、深谷&渡辺 2007; 59)

どちらの教科書も、意味を英語または日本語で提示し例文を挙げているが、「せいぜい」が「当該の物事の程度がどのくらいの程度を述べる文(節)と共起しなければならない」ことも、またどのような構文がそのような程度を述べる文(節)に相当するのかも説明してはいない。このような意味と例文の提示だけで、日本語学習者は果たして「せいぜい」を正しく使うことができるのであろうか。

### 4. 学習者の「せいぜい」の使用

そこで、日本語学習者の「せいぜい」の使用データを集めて分析を行ってみた。対象学習者は、2016年春学期に米国の大学の400番台の日本語講座で「中級の

日本語」で「せいぜい」を学習した男子10名、女子2名の計12名（全員英語母語話者）である。宿題として提出した「中級の日本語」のワークブックの「せいぜい」の練習問題の答えをデータとして使用した。

「せいぜい」の練習問題では、学習者は(14)の例にならって、(15)の5つの質問Aに答えるよう指示されている。

- (14) [例] A: 日本料理をよく食べますか。  
B: そうですね、一年にせいぜい二、三度ですね。 (三浦&マグローイン 2008b; 86)

- (15) 1 A: よく映画を見にいきますか。  
2 A: よくレストランで食べますか。  
3 A: たくさん漢字が書けますか。  
4 A: 一日にどのくらい漢字が覚えられますか。  
5 A: よく手紙を書きますか。(三浦&マグローイン 2008b; 86)

この結果、12人中3人は5つ全ての答えにおいて(16)のBのような「せいぜい」を正しく使用した文を産出した。

- (16) 1 A: よく映画を見にいきますか。  
B: 映画を見に行くことは、せいぜい一年に二、三度です。  
2 A: よくレストランで食べますか。  
B: 一週間にせいぜい二、三度だ。(学習者 LG)

つまり、3人全員が例文に従い「XハY程度(数量詞)ダ」の構文を使った文を「せいぜい」と共起させたことになる。

一方、12人中9人は一度は(17)のような不自然な文を産出しており、その9人のうち3人は、全ての答えが(17)のように不自然であった。

- (17) 1 A: よく映画を見にいきますか。  
B: ??実は、一ヶ月にせいぜい三度見に行きます。  
2 A: よくレストランで食べますか。  
B: ??そうですね、一週間にレストランでせいぜい二度食べます。  
(学習者 PS)

これら(17)の文章Bは「せいぜい」が数量詞を使って程度化を表した表現と一緒に用いられてはいるものの、(9)にある「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文(節)」と共起をしていないために許容度の低い不自然な答えとなってしまっていると考えられる。

これらの結果から、(i) ワークブックに「XハY程度(数量詞)ダ」の構文を使った例を載せているにもかかわらず不自然な文を産出したということは、例文を提示しただけでは「XハY程度ダ」を「せいぜい」に必要な共起構文だと

は認識しない学生がいること、また、(ii) 「XハY程度(数量詞)ダ」を使ったり使わなかったりした学習者がいたことから、学習者は「せいぜい」が「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文(節)」と共起しなければならないことを必ずしも理解しているわけではないか、または、(iii) 理解していたとしても、学習者は「XハY程度ダ」以外の共起構文を知らないことがわかる。

つまり、「せいぜい」の指導において、学習者に「せいぜい」との共起構文を明示する必要があることを、これらの結果は指し示していると言えるだろう。では、明示すべき構文とはどのようなものがあるのでしょうか。

## 5. 「せいぜい」との共起構文の調査

そこで、日本語母語話者が「せいぜい」と共に使っている構文を調査するため、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」における「せいぜい」の使用例を、検索サイト「少納言」<<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>>を使って収集・分析した。

2001年から2008年の間に「せいぜい」は合計689回コーパス内で使われており、そのうち前後の文脈から「せいぜい」の意味が「できるだけ」「たかだか」「せめて」に分類可能なものの内訳が、下の表1である。

表1 せいぜい：それぞれの意味で使われている回数(2001-2008)

	「できるだけ」	「たかだか」	「せめて」
Yahoo!知恵袋(2005)	8	71	4
Yahoo!ブログ(2008)	15	37	0
新聞(2001-2005)	0	5	0
雑誌(2001-2005)	3	33	0
書籍(2001-2008)	49	368	2
韻文(2001-2005)	0	1	0
広報誌(2008)	0	1	0
合計	75	516	6

この表1から、「せいぜい」は林(2013)が言うように「たかだか」の意味で一番よく使われていることが分かる。

次に、「たかだか」の意味で使われている「せいぜい」と共起する構文タイプを調べるために、構文タイプを「XハY程度ダ」タイプ(例 映画を見に行くことは、せいぜい一年に二、三度です。)と「述部が動詞」タイプ(例 せいぜい一年に二、三度しか映画を見ません。)に分け、それぞれのタイプと使用数(表2)とそれぞれのタイプで使われている表現(表3、4、5)を調査した。

表2 せいぜい：「XハY程度ダ」と「述部が動詞」タイプの使用数

	XハY程度ダ	述部が動詞
Yahoo!知恵袋(2005)	60	11
Yahoo!ブログ(2008)	28	9
新聞(2001-2005)	5	0

雑誌 (2001-2005)	32	1
書籍 (2001-2008)	305	63
韻文 (2001-2005)	1	0
広報誌 (2008)	0	1
合計	431	85

この結果、「XハY程度ダ」と「述部が動詞」タイプの割合は5:1で、「XハY程度ダ」タイプが「せいぜい」と共により頻繁に使われていることが分かった。

さらに、「XハY程度ダ」「述部が動詞」のそれぞれのタイプで使われている具体的な表現を調べたところ、以下のことが明らかになった。まず、「XハY程度ダ」タイプでYが名詞か数量詞、または両方の場合は(18)のようなパターンが観察された。

(18) 「XハY程度ダ」: Yが名詞、数量詞の場合

- a せいぜい、Xハ名詞ダ
- b せいぜい、Xハ数量詞ダ
- c せいぜい、Xハ名詞+数量詞ダ
- d せいぜい、Xハ名詞+「程度」ダ
- e せいぜい、Xハ数量詞+「程度」ダ
- f せいぜい、Xハ名詞+数量詞+「程度」ダ

使用される名詞や数量詞はコンテキストによるため無限であるが、「程度」を表す表現は数が限られている。そこで、この「程度」表現の種類と使用回数を調べたものが表3である。

表3 「XハY程度ダ」: Yが名詞、数量詞の場合の「程度」を表す表現

程度を表す表現	数	例
～くらい(ぐらい)	77	一番広い所でもせいぜい100mくらいだろう。(書籍105)
～程度	36	1日にかかる時間はせいぜい1分程度。(書籍81)
～まで	21	俺にできるのはせいぜいそこまでだった。(書籍36)
～といったところ	12	せいぜい百万円といったところで頭打ちですね。(書籍151)
～しかない	12	積雪深がせいぜい1mしかない。(書籍3)
～にすぎない	9	投資に用いられるのは5%にすぎなかった。(書籍47)
～どまり	8	一つの自立語につく数もせいぜい三つどまりだ。(書籍227)

表3からは、文字通り程度を表す「～くらい(ぐらい)」「～程度」「～といったところ」の使用が圧倒的に多いものの、その他の限度・限定や希望するレベルに届いていないという評価を下す表現(「～まで」「～しかない」「～にすぎない」「～どまり」)も使われていることが分かる。また、この他にも「～だけ」「～ほど」「～前後」「～以下」「～あたり」「～のみ」等も使われており、「程度」表現の種類の高さも観察された。

次に、Y が動詞である場合は、当然「\*せいぜい、Xハ動詞ダ」「\*せいぜい、Xハ数量詞+動詞ダ」はありえないが、しかし「程度」表現を使うことにより、(19)のようなパターンは可能であった。

- (19) 「XハY程度ダ」：Yが動詞の場合
- a せいぜい、Xハ動詞+「程度」ダ
  - b せいぜい、Xハ数量詞+動詞+「程度」ダ

Yが名詞か数量詞の時と同様、Yが動詞の時に使われる「程度を表す表現」について調査した結果が表4となる。

表4 「XハY程度ダ」：Yが動詞の場合の「程度」を表す表現

程度を表す表現	数	例
～くらい(ぐらい)	30	移動の時間は、せいぜい本や資料を読むくらいで、(書籍301)
～程度	28	せいぜいその外壁はほんの少しいぶされた程度で、(書籍2)
～だけ	19	優れた心理学者だと言ってるだけです、せいぜい(書籍199)
～にすぎない	7	せいぜい数人の目にとまるにすぎなかっただろう。(書籍102)

表4からも、程度を表す「～くらい(ぐらい)」「～程度」の使用が多いことが分かるが、Yが名詞か数量詞の時と違い、Yが動詞の場合では「程度」表現の種類が少ないことが明らかである。

次に、「述部が動詞」タイプについても、同様に使用されている表現について種類と使用回数を調べたものが表5である。

表5 「述語が動詞」：程度を表す共起表現

程度を表す表現	数	例
しか～ない	36	せいぜい20～30cmしか伸びません。(書籍484)
～ば	12	せいぜい十センチ先が見えれば、十分なの。(書籍500)
否定	4	せいぜい30分と離れていない。(書籍246)
(仮定節+)可能	3	この距離ならせいぜい18分で走れてしまうのだ。(書籍175)

表5から「述語が動詞」の場合は「しか～ない」か仮定の「～ば」がよく使われていることが分かる。また、「しか～ない」以外の動詞の否定形や可能形も見られ、特に可能形は仮定節等と共に使われているようだが、傾向を一般化するにはより多くのサンプル数が必要であろう。また、回数は1回ずつであったが、限度やことの区切りを表す動詞(とどめる、とめる、片付く)が単独で使われている場合も見受けられた。

以上、「せいぜい」との共起構文についてコーパスを使って調査したが、その結果をまとめると以下ようになる。(i)「せいぜい」と共起する「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文(節)」に相当する構文パターンは、「XハY程度ダ」と「述部が動詞」タイプがあり、その割合は5:1で「XハY程度ダ」がより多く使われている。(ii)「XハY程度ダ」で「程度」を表す表

現は「～くらい（ぐらい）」「～程度」が一番多いが、Yが名詞・数量詞の場合は他にも多種類の表現が使われているのに比べて、Yが動詞の場合は種類が少ない。また、(iii)「述部が動詞」の場合は、その構文パターンはさらに少なくなり「しか～ない」か「～ば（仮定）」がほとんどであることがわかった。では、この調査結果を踏まえ、学習者には「せいぜい」をどのように提示すればよいのかを次に考察する。

## 6. 「せいぜい」の学習者への提示案

本稿の3・4節では、「せいぜい」の意味と例文のみを提示しただけでは学習者が必ずしも「せいぜい」を正しく使えないことを示し、学習者に「せいぜい」の使い方を構文とともに明示する必要性を説いた。では、どのような情報をどのように提示すればよいのだろうか。情報については、下の(20)が考えられる。

### (20) 学習者に明示する「せいぜい」についての情報

- ・意味：(例)「多くても、最高で」という意味。限界を表すが、その量や範囲、頻度等は好ましいレベルには届いていない。
- ・使い方：「どのくらいの程度かを述べる文(節)」と一緒に使う。
- ・構文と例文：「どのくらいの程度かを述べる文(節)」は主に「XハY程度ダ」構文で表されるが、そうでない場合(「述語が動詞」タイプ)もある。

「せいぜい」と共起する「XハY程度ダ」構文の説明の一例として、以下のようなものはどうだろうか。

### (21) 構文 XハY程度ダ：Yが数量詞の場合 (Xハ数量詞ダ)

- A：お弁当を作りますか。
- B：はい、でも(作るのは)せいぜい週に一回です。
- B'：はい、でも(作るのは)せいぜい週に一回{くらい・程度・だけ・といったところ}です。

### (22) 構文 XハY程度ダ：Yが名詞の場合 (Xハ名詞ダ)

- A：お弁当を作りますか。
- B：はい、でも(作るのは)せいぜいおにぎりです。
- B'：はい、でも(作るのは)せいぜいおにぎり{くらい・程度・だけ・といったところ}です。

(21) (22)では、「週に一回」や「おにぎり」が好ましいレベルでない時のみ「せいぜい」と共に使えることを確認し、また、Yは数量詞や名詞だけでも可能だが、さらに程度を表す様々な表現{くらい・程度・だけ・といったところ}と一緒に使えることも伝えることが必要である。また、(23)では名詞と数量詞の両方を一緒に使うこともできることを示す。



- (23) 構文 XハY程度ダ：Yが名詞・数量詞の場合 (Xハ名詞・数量詞ダ)  
 A：お弁当を作りますか。  
 B：はい、でも（作るのは）せいぜいおにぎりを週に一回です。  
 B'：はい、でも（作るのは）せいぜいおにぎりを週に一回 {くらい・程度・だけ・といったところ} です。

ここで、学生が産出する可能性のある許容度の低い「せいぜい」を使った文(24)を見せ、それを(25)の「XハY程度ダ」を用いるか、(26) (27)のように「述語が動詞」のパターンを使って正しい文にする方法を提示する。

- (24) 「せいぜい」と一緒に使えない文の例  
 A：お弁当を作りますか。  
 B：?? はい、でもせいぜい週に一回作ります。  
 B'：?? はい、でもせいぜいおにぎりを作ります。

- (25) 構文 XハY程度ダ：Yが動詞の場合 (Xハ動詞+「程度」ダ)  
 A：お弁当を作りますか。  
 B：はい、でもせいぜい週に一回作る {くらい・程度・だけ} です。  
 B'：はい、でもせいぜいおにぎりを作る {くらい・程度・だけ} です。

ここ(25)では、(21)や(22)のYが数量詞や名詞の時と違い、動詞は程度を表す {くらい・程度・だけ} と一緒に使う必要があることを説明する。さらに、(24)の文章は、(26) (27)のようになると「せいぜい」と共起する「どのくらいの程度を述べる文(節)」になることも学生に示すのがいいだろう。

- (26) 構文 しか+動詞(否定形)  
 A：お弁当を作りますか。  
 B：はい、でもせいぜい週に一回しか作りません。  
 B'：はい、でもせいぜいおにぎりしか作らない。

- (27) 構文 動詞(仮定形)、いいほうです  
 A：お弁当を作りますか。  
 B：はい、でもせいぜい週に一回おにぎりを作れば、いいほうです。

以上、学習者への提示方法の一例として、(i) 「せいぜい」の意味と「せいぜい」が「どのくらいの程度かを述べる文(節)」と共起することを伝えたあと(20)、(ii) 具体的に、まず、よく使われる「XハY程度ダ」構文を例文とともに示し(21、22)、(iii) 次に学生が間違えやすい文を示した後で(23)、(iv) どのようにすれば「せいぜい」との共起文になるかを示す過程で、「Xハ動詞+「程度」ダ」(25)に加え、「述語が動詞」の場合の「しか+動詞(否定)」や「動詞(仮定)、いいほうだ」の構文を例文とともに示す(26、27)という提示方法を提案した。

## 7. まとめ

本稿では、日本語学習者に「たかだか」の意味で使われる「せいぜい」を教える際に伝えるべき情報とその情報の提示方法について考察した。まず、先行研究を「もとに、「せいぜい」は「当該の物事の程度がどのくらいの程度かを述べる文（節）と共起しなければならない」（安部 2012）等の「せいぜい」の使用方法に関する制約をまとめた（2節）。そして、「せいぜい」は日本語教科書では意味と例文のみが与えられていることを観察し（3節）、その教科書の一つを使った学習者の「せいぜい」の使用例から、意味と例文だけでは正しく「せいぜい」が使えないことがわかったため、「せいぜい」の共起構文の明示が必要であることを提唱した（4節）。そこで、共起構文明示のために、具体的にどのような構文が実際に使われているのかを『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を使い調査し、「XハY程度ダ」構文が多く使用されていることや、「程度」に入る表現の種類、さらに「述部が動詞」の場合の構文パターンは限られていることを明らかにした（5節）。そして、この分析をもとに、最後に具体的な「せいぜい」の提示例と提示順序案を挙げた（6節）。今後の課題として、共起構文を明示した提示方法が学習者の正しい「せいぜい」の使用につながるかを検証する必要があるが、本研究がなんらかの形で日本語教員のみなさまの一助になれば幸いである。

## 参考文献

- 安部朋世（2005）「セイゼイ・タカダカ・タカガの意味分析」『千葉大学教育学部研究紀要』53, 279-284 千葉大学教育学部
- 安部朋世（2006）「副詞セイゼイの意味・用法と『とりたて』の在り方」矢澤真人・橋本修（編）『現代日本語文法-現象と理論のインタラクション』193-214 ひつじ書房
- 安部朋世（2012）「副詞セイゼイと類似表現の考察」『千葉大学教育学部研究紀要』60, 401-406 千葉大学教育学部
- 林禊映（2013）「副詞『せいぜい』の意味変化：近代語を中心に」『日本語学論集』9, 208-190 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室
- 行田悦子、深谷久美子、渡辺撰（2007）『日本語能力試験1・2級語彙対策標準テキスト』秀和システム
- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』  
<<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>>
- 三浦昭、マグロイン花岡直美（2008a）An Integrated Approach to Intermediate Japanese [Revised Edition] 『中級の日本語 [改訂版]』The Japan Times
- 三浦昭、マグロイン花岡直美（2008b）An Integrated Approach to Intermediate Japanese [Revised Edition] Workbook 『中級の日本語[改訂版]ワークブック』The Japan Times
- 向坂卓也（2009）「副詞『せいぜい』の用法変化」『言語コミュニケーション文化』7(1), 129-143 関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化学会
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店